

V

海外での学び



期間や目的、国や地域で選べる 多彩な留学プログラム

短期の留学

- 海外セミナー（学部・短期大学生対象） 252
- ケンブリッジ大学英語研修（短期留学）（学部・短期大学生対象） 253
- 国立マレーシア科学大学英語研修（短期留学）（学部・短期大学生対象） 254
- 夏期英語研修（短期大学生対象） 255
- 海外日本語教壇実習プログラム（学部生対象） 255

長期の留学

- 交換留学プログラム [派遣留学 A]（学部・短期大学生対象） 256
- セメスター・アブロード・プログラム [派遣留学 B：英語圏]（学部生対象） 256
- ブリッジ・プログラム [派遣留学 C：英語圏]（学部生対象） 257
- 認定留学（学部・短期大学生対象） 257
- 派遣留学・認定留学に伴う単位認定 258
- SAF（スタディ・アブロード・ファウンデーション）留学/休学留学（学部・短期大学生対象） 262

オフ・キャンパス・プログラム

- オフ・キャンパス・プログラム（国際教養学科生対象） 263
 - 海外留学（短期）
 - 日米グローバルスタディプログラム
 - グローバルビジネス・プログラム



海外インターンシップ・海外フィールドワーク

- 海外インターンシップ（学部・短期大学生対象） 264
- 海外フィールドワーク（学部生対象） 266
- エアライン・スタディ・プログラム（学部・短期大学生対象） 267
- TECSOL&J-SHINE 認定取得プログラム（学部・短期大学生対象） 268
- 海外語学研修の単位認定（学部生対象） 269

リーダーシップ・チャレンジ

- リーダーシップ・チャレンジ（学部・短期大学生対象） 270
 - APSSA 学生カンファレンス
 - リーダーシップ・チャレンジ in 台湾
 - リーダーシップ・チャレンジ in サイパン
 - リーダーシップ・チャレンジ in 韓国

留学サポート

- 留学サポート 271
 - 国際部（9号館5階）
 - 留学情報室（9号館5階）
 - 国際部 Student Staff (S.S.)
 - 留学月間報告書閲覧システム
 - 留学フェア
 - 留学制度の担当部署
- 海外渡航をする場合の留意事項 273

短期の留学

海外セミナー

(学部・短期大学生対象)

夏期・春期の長期休暇を利用して、海外の協定大学で3～4週間の語学研修を行います。専攻語だけでなく、第2外国語などで学ぶ言語圏のセミナーにも参加することができ、オーストラリア、中国、イギリス、カナダ、スペイン、フランス、ドイツ、ポルトガル、イタリア、台湾の10セミナーを実施しています。

参加資格およびプログラムの詳細については、ホームページで確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

POINT

- ★休暇中に海外の協定大学で3～4週間の語学研修
- ★研修プログラムの内容はフィールドトリップもあって盛りだくさん!
- ★研修中はホームステイや学生寮で生活体験
- ★日本出発から現地の初期導入期(約1週間)は本学の教員が引率
- ★長期留学の準備段階としても最適
- ★帰国後にレポートを提出し、合格点の学生には卒業に必要な単位として4単位を認定

< プログラム(予定) >

セミナー名	研修先場所	研修期間	宿泊場所
オーストラリア	クイーンズランド大学	8月中旬～9月中旬	ホームステイ
中国 (隔年実施)	北京第二外国語学院	8月上旬～9月上旬	ホームステイ
イギリス	キール大学	2月中旬～3月中旬	ホームステイ、ホテル
カナダ	ダグラスカレッジ	2月中旬～3月中旬	ホームステイ
スペイン	ナバラ大学	3月上旬～3月下旬	ホームステイ、ホテル
フランス	アンジェ・カトリック大学	2月中旬～3月中旬	ホームステイ、ホテル
ドイツ	マンハイム大学	2月上旬～3月上旬	ホームステイ
ポルトガル	コインブラ大学	2月中旬～3月中旬	ホームステイ、ホテル
イタリア	ペルージャ外国人大学	3月上旬～3月下旬	レジデンス
台湾 (隔年実施)	国立政治大学	3月上旬～3月下旬	留学生寮

< 単位認定 >

研修および帰国後のレポートにより総合的に評価を行い、合格点(60点以上)の学生には、下記のとおり単位を認定します。

【学部生】

- 2014年度以降入学者:自由選択「海外セミナー」として4単位を認定
- 2013年度以前入学者:全学共通基礎科目「海外セミナー」として4単位を認定

【短期大学生】

- オフ・キャンパス科目ー海外研修ユニット「海外セミナー」として4単位を認定

ケンブリッジ大学英語研修 (短期留学) (学部・短期大学生対象)

イギリスが誇る世界の名門、ケンブリッジ大学ヒューズ・ホールで春期休暇を利用して、2週間の英語集中研修を行います。英語を第2外国語などで学んでいる人も参加できます。

ケンブリッジ大学はイギリスのケンブリッジに所在する総合大学で、イギリス伝統のカレッジ制を特徴とする世界屈指の名門大学です。中世に創設されて以来、英語圏ではオックスフォード大学に次ぐ古い歴史を持ち、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ各国からの留学生も多い大学です。

参加資格およびプログラムの詳細については、説明会で配布する資料で確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

POINT

- ★イギリスが誇る世界の名門、ケンブリッジ大学ヒューズ・ホール（本学協定大学）が実施する2週間の英語集中研修
- ★プログラムの内容は、ケンブリッジ大学生との交流やフィールドワークなど盛りだくさん！
- ★留学中はホームステイで生活体験
- ★留学中の成果は、留学先の学修時間に応じて、本学の卒業に必要な単位として認定

< 留学期間 >

2月中旬～下旬（2週間・予定）

< 単位認定 >

【学部生】

- 2014年度以降入学者：留学先での学修時間に応じて、自由選択「国内・海外留学認定科目」として認定
- 2013年度以前入学者：留学先での学修時間に応じて、全学共通研究科目「海外・国内留学認定科目」として認定

【短期大学生】

- 留学先での学修時間に応じて、教養科目（教養ユニットB）「海外留学認定科目」として認定

国立マレーシア科学大学英語研修 (短期留学) (学部・短期大学生対象)

国立マレーシア科学大学で夏期または春期休暇を利用して、5週間の英語集中研修を行います。英語を第2外国語などで学んでいる人も参加できます。

参加資格およびプログラムの詳細については、ホームページで確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

POINT

- ★国立マレーシア科学大学 (本学協定大学) が実施する5週間の英語集中研修
- ★プログラムの内容は、国立マレーシア科学大学生との交流やアクティビティなど盛りだくさん!
- ★留学中の成果は、留学先の学修時間に応じて、本学の卒業に必要な単位として認定

■ 夏期プログラム (一般英語)

< 留学期間 >

8月上旬～9月中旬 [5週間・予定]

< 単位認定 >

【学部生】

- 2014年度以降入学者：留学先での学修時間に応じて、自由選択「国内・海外留学認定科目」として認定
 - 2013年度以前入学者：留学先での学修時間に応じて、全学共通研究科目「海外・国内留学認定科目」として認定
- 【短期大学生】
- 留学先での学修時間に応じて、教養科目 (教養ユニットB) 「海外留学認定科目」として認定

■ 春期プログラム (TOEIC対策)

< 留学期間 >

2月中旬～3月中旬 [5週間・予定]

< 単位認定 >

【学部生：英米語学科、国際教養学科】

- 2014年度以降入学者：< TOEICスコア 550点未取得者 >

留学先で実施する TOEIC テストで 550 点以上のスコアを取得すれば、その場合に限り、留学先での学修時間に応じて、外国語強化科目「英語インテンシブ」のインターミディエイトの「国内・海外留学認定科目 (英語)」として認定

TOEIC 550 点以上を取得できない場合は、留学先での学修時間に応じて、自由選択「国内・海外留学認定科目」として認定

< TOEICスコア 550点以上既取得者 >

留学先での学修時間に応じて、外国語強化科目「英語インテンシブ」のインターミディエイトの「国内・海外留学認定科目 (英語)」として認定。外国語強化科目の卒業要件単位数を超える場合は、余剰単位を自由選択「国内・海外留学認定科目」として認定

- 2013年度以前入学者：留学先での学修時間に応じて、全学共通研究科目「海外・国内留学認定科目」として認定

【学部生：英米語学科、国際教養学科以外の学科】

- 2014年度以降入学者：留学先での学修時間に応じて、自由選択「国内・海外留学認定科目」として認定
 - 2013年度以前入学者：留学先での学修時間に応じて、全学共通研究科目「海外・国内留学認定科目」として認定
- 【短期大学生】
- 留学先での学修時間に応じて、教養科目 (教養ユニットB) 「海外留学認定科目」として認定

夏期英語研修

(短期大学生対象)

オーストラリアのクイーンズランド大学で夏期休暇を利用して、5週間の英語集中研修を行います。英語会話試験と面接などにより4名の学生を選抜し、選抜された学生には、クイーンズランド大学の授業料と往復航空運賃を奨学金として支給します。

出願資格等の選考試験についての詳細およびプログラムの詳細については、ホームページで確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

POINT

- ★クイーンズランド大学(本学協定大学)が実施する5週間のGeneral English (GE) コースに派遣
- ★研修中はホームステイで生活体験
- ★研修中の成果は、研修先の学修時間に応じて、本学の卒業に必要な単位として認定
- ★クイーンズランド大学の授業料と往復航空運賃を本学が奨学金として支給

< 研修期間 >

8月中旬～9月下旬〔5週間〕

< 単位認定 >

- 研修先での学修時間に応じて、オフ・キャンパス科目—海外留学ユニット「夏期英語研修」として認定

海外日本語教壇実習プログラム

(学部生対象)

本学で日本語教師を目指している学生を、海外の日本語教育機関に派遣し、諸外国における日本語教育の現場を経験することにより、本学の日本語教師志願者および海外での日本語学習者への支援ならびに日本語および日本文化等を普及することを目的としています。

出願資格等の選考試験についての詳細およびプログラムの詳細については、ホームページで確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

POINT

- ★休暇中に海外の日本語教育機関で日本語教育の現場を経験
- ★事前・事後学習でトータルサポート
- ★実習中の成果は、実習時間に応じて、本学の卒業に必要な単位として認定!

< 実施時期 >

夏期・春期休暇中(事前指導・事後学習会含む)

< 実習先(予定) >

オーストラリア、アメリカ(ハワイ)、台湾、韓国、マレーシア、クロアチア等

< 単位認定 >

【日本語学科】

- 2014年度以降入学者:実習時間(事前・事後学習を含む)に応じて、専門特別演習科目「国内外日本語教壇実習」(1～8単位)として認定
- 2013年度以前入学者:実習時間(事前・事後学習を含む)に応じて、専攻語専門科目(選択)「国内外日本語教壇実習」(1～8単位)として認定

【日本語学科以外】

- 2014年度以降入学者:日本語教員養成プログラム(コース2)登録者のみ、実習時間(事前・事後学習を含む)に応じて、「国内外日本語教壇実習」(1～8単位)として認定(単位は自由選択に算入)
- 2013年度以前入学者:日本語教員養成プログラム(コース2)登録者のみ、実習時間(事前・事後学習を含む)に応じて、「国内外日本語教壇実習」(1～8単位)として認定(単位は卒業要件に含まない)

長期の留学

交換留学プログラム [派遣留学A]

(学部・短期大学生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学へ1学期間または2学期間留学ができる制度です。奨学金などのサポート制度を最大限に生かした留学で、学部生は4年間、短期大学生は2年間で卒業することができます。

なお、留学期間中の本学への学費は全額納入することになります。

出願資格等の選考試験についての詳細および協定大学紹介については、ホームページで確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

■ 学部

学力試験と面接などにより選抜した学生を1学期間または2学期間、海外の協定大学に派遣する制度です。留学先大学の授業料が免除されるほか、本学から奨学金を支給します。

■ 短期大学

英語会話試験と面接などにより選抜した若干名の学生を1学期間、カナダのダグラスカレッジに派遣する制度です。ダグラスカレッジの授業料が免除されるほか、本学から奨学金を支給します。

POINT

- ★留学先大学によっては、学部の授業の履修が可能
- ★本学から奨学金として、最高50万円を支給
- ★単位認定の制度有
- ★一定の条件を満たせば、専攻する言語圏以外の国・地域の協定大学にも留学可能
- ★留学先大学の授業料は免除

※単位認定については258～262ページを参照してください。

semester・アブロード・プログラム [派遣留学B:英語圏] (学部生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学の英語コースへ1学期間留学ができる制度です。出願書類およびTOEFL iBTテスト、IELTSまたはIELTS for UKVIのスコアに加え、TOEICのスコアにより選抜し、合格者には、留学先大学の授業料が奨学金として全額支給されます。なお、留学期間中の本学への学費は全額納入することになります。

出願資格等の選考試験についての詳細および協定大学紹介については、ホームページで確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

POINT

- ★1学期間、協定大学の英語コースへ留学
- ★単位認定の制度有
- ★留学期間を含む4年間で卒業が可能
- ★留学先大学の授業料を奨学金として支給
- ★留学中は学生寮やホームステイで生活体験

※単位認定については258～261ページを参照してください。

ブリッジ・プログラム [派遣留学C:英語圏]

(学部生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学の英語コース1学期間+学部1学期間の合計2学期間留学ができる制度です。出願書類および TOEFL iBT テスト、IELTS または IELTS for UKVI のスコアに加え、TOEIC のスコアにより選抜し、合格者には、留学先大学の授業料が奨学金として全額支給されます。なお、留学期間中の本学への学費は全額納入することになります。

出願資格等の選考試験についての詳細および協定大学紹介については、ホームページで確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

POINT

- ★英語コース1学期間+学部1学期間の合計2学期間、協定大学へ留学
- ★単位認定の制度有
- ★留学期間を含む4年間で卒業が可能
- ★留学先大学の授業料を奨学金として支給
- ★留学中は学生寮やホームステイで生活体験

※単位認定については258～261ページを参照してください。

認定留学

(学部・短期大学生対象)

自分の興味や目的に合った留学先大学を決め、本学の許可を得て私費で留学する制度です。ただし、留学に伴う経費や日程などは、自分で綿密に計画を立てなければなりません。留学期間は1学期間または2学期間です。

なお、留学期間中の本学への学費は全額納入することになります。

申請資格・条件等については、ホームページで確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

POINT

- ★留学にかかる経費はすべて自己負担となりますので、資金計画をしっかりと立てましょう。
- ★時間的余裕をもって、申請に必要な学内手続きを進めてください。
- ★進級基準に該当する授業科目の中に不合格科目がある場合は、「認定留学」が認められない場合がありますので、学部生はアカデミック・アドバイザーおよび学科長と、短期大学生は修学アドバイザーおよびキャリア英語科長と十分に相談してください。
- ★短期大学生の留学先は、ダグラスカレッジとし、留学期間は1学期間のみとします。
- ★単位認定の制度があります。

※単位認定については258～262ページを参照してください。

派遣留学・認定留学に伴う単位認定

< 単位認定の方法 >

単位認定は、原則として、留学先大学で履修したすべての授業時間数を、次の計算式によって本学の単位に換算し、授業科目の区分毎に本学の卒業に必要な単位として認定します。

【単位換算の計算式】

$$\frac{\text{留学先大学で履修したすべての授業時間数 (分)}}{900 \text{ 分 (本学で 1 単位を修得するために必要な基準時間数)}} = \text{本学での単位数}$$

※認定方式は、留学先大学で履修した授業内容に関係なく認定する「一括認定」と、本学の授業科目に類似した授業科目を留学先大学で履修した場合に振り替えて認定する「振替認定」で行います。

< 認定単位数等 >

留学期間	単位認定の上限		申請から認定まで
	学部	短期大学	
1 学期間	16 単位	16 単位	本人の申請に基づき所属学科会議を経て教授会で審議のうえ、その可否を決定します。したがって、留学すれば必ず単位が認定されるというものではありません。 留学を計画した時点でアカデミック・アドバイザー（学部）・修学アドバイザー（短期大学）および授業科目担当者（短期大学はキャリア英語科長）・国際部・教務部へ相談し、指導を受け、帰国後の単位認定申請に備えてください。
2 学期間	32 単位	—	

※単位認定全体の上限等については、「本学以外での学修成果に対する単位認定」（学部 52 ページ、短期大学 222・223 ページ）を参照してください。

学部

2014 年度以降入学者対象

1 専攻語圏の大学へ留学した場合の単位認定の方法

留学先で修得した単位の認定方法は、原則として包括的な一括認定方式とします。ただし、外国語科目や日本語学科および国際教養学科の専門特別演習科目は科目対科目の振替認定とし、総合科目および基礎ゼミナール、卒業選択、資格課程に関する科目の認定は行いません。

なお、成績表等への表記は、専攻語科目・専門科目を除き一括認定の場合は原則として海外留学認定科目、振替認定の場合は本学の授業科目名となります。

【単位認定の対象になる授業科目と優先順位】

単位認定の対象になる授業科目は次表のとおりで、各学科の授業科目区分に応じて単位認定を行います。

単位認定の申請は、原則として次表の優先順位に基づいて本人が行ってください。進級基準にかかる単位が残っている場合は、その単位を優先してください。

全学科

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表(証明書)への表記方法	備考
①	専攻語科目・専門科目	一括認定	授業科目名で表記する	当該セメスターの単位まで
②	グローバル・スタディ科目群(エリア A) <学科指定必修・選択必修>	一括認定	授業科目名で表記する (選択必修は海外留学認定科目)	当該セメスターまでの学科指定科目(必修・選択必修)の単位
③	専門特別演習科目 (日本語・国際教養学科のみ)	振替認定	授業科目名で表記する	当該セメスターの単位まで
④	第2外国語科目	振替認定	授業科目名で表記する	当該セメスターの単位まで
⑤	外国語強化科目	振替認定	海外留学認定科目(〇〇語)で表記する	インターミディエイトの科目の単位として認定(英米語学科は、インターミディエイトの履修基準に達している場合に限る)
⑥	第3外国語科目	振替認定	授業科目名で表記する	
⑦	グローバル・スタディ科目群(エリア B)	一括認定	海外留学認定科目で表記する	上記②を含めて卒業要件を限度とする
⑧	キャリア・スタディ科目群	一括認定	海外留学認定科目で表記する	選択するまたは選択したコースの100番台(既に100番台の科目を修得している場合は200番台)の科目の単位として16単位を限度に認定
⑨	自由選択	一括認定	海外留学認定科目で表記する	上記①～⑧の単位を含めて留学期間に応じた認定する単位数を上限とする

2 専攻語圏以外の大学へ留学した場合および国際教養学科の学生が留学した場合の単位認定の方法

各学科の専攻語科目・専門科目およびグローバル・スタディ科目群(エリア A)の学科指定科目の単位認定については、以下の①～③に従い、類似した科目を履修した場合に振り替えて認定します。それ以外の単位認定は専攻語圏への留学の認定方式を準用します。

- ①各学科の専攻語科目・専門科目の単位認定については、該当セメスターの専攻語科目・専門科目の半分の単位数(小数点以下は四捨五入)よりも認定可能な単位が少ない場合は、該当セメスターの専攻語科目・専門科目の単位数の半分まで(小数点以下は四捨五入)を認定します。
- ②グローバル・スタディ科目群(エリア A)の学科指定科目の単位認定については、類似した科目を履修した場合、必修科目は授業科目名に、選択必修科目は海外留学認定科目に振り替えて認定します。
- ③4年次配当の専攻語科目については、該当する学期の授業科目の単位を認定します。

2013 年度以前入学者対象

1 専攻語圏の大学へ留学した場合の単位認定の方法

留学先で修得した単位の認定方法は、原則として包括的な一括認定方式とします。ただし、外国語科目や日本語学科の専攻語専門科目（必修）は科目対科目の振替認定とし、総合科目および保健体育科目（必修）、卒業選択、資格課程に関する科目の認定は行いません。

なお、成績表等への表記は、一括認定の場合は原則として海外留学認定科目、振替認定の場合は本学の授業科目名となります。

【単位認定の対象になる授業科目と優先順位】

単位認定の対象になる授業科目は下表のとおりで、各授業科目区分に応じて単位認定を行います。

単位認定の申請は、原則として下表の優先順位に基づいて本人が行ってください。下表①②以外（国際教養学科は①②③）の授業科目区分で進級基準に係る単位が残っている場合は、その単位を優先してください。

英米語学科・スペイン語学科・フランス語学科・ドイツ語学科・ブラジルポルトガル語学科・中国語学科・イタリア語学科

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表（証明書）への表記方法	備考
①	専攻語演習科目（必修）	一括認定	授業科目名で表記する	当該セメスターの単位まで
②	専攻語基礎科目 （英米語学科を除く）	一括認定	授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
③	専攻語演習科目（選択）	一括認定	海外留学認定科目で表記する	卒業要件を限度とする
④	専攻語研究科目	一括認定	海外留学認定科目で表記する	卒業要件を限度とする
⑤	第2外国語基礎科目	振替認定	授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
⑥	第2外国語研究科目	振替認定	授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
⑦	第3外国語科目	振替認定	授業科目名で表記する	
⑧	全学共通基礎科目	一括認定	海外留学認定科目で表記する	卒業要件を限度とする
⑨	全学共通研究科目	一括認定	海外留学認定科目で表記する	
⑩	重点履修科目	全学共通研究科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位数を算入する		

日本語学科（日本語を母語とする学生）

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表（証明書）への表記方法	備考
①	専攻語専門科目（必修）	振替認定	授業科目名で表記する	当該セメスターの単位まで
②	専攻語基礎科目	一括認定	授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
③	専攻語専門科目（選択）	一括認定	海外留学認定科目で表記する	卒業要件を限度とする
④	第1外国語科目	振替認定	授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
⑤	第2外国語基礎科目	振替認定	授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
⑥	第2外国語研究科目	振替認定	授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
⑦	第3外国語科目	振替認定	授業科目名で表記する	
⑧	全学共通基礎科目	一括認定	海外留学認定科目で表記する	卒業要件を限度とする
⑨	全学共通研究科目	一括認定	海外留学認定科目で表記する	
⑩	重点履修科目	全学共通研究科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位数を算入する		

国際教養学科

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表（証明書）への表記方法	備考
①	専門研究科目（選択 B）	振替認定	海外留学で表記する	卒業要件を限度とする
②	専門基礎科目		授業科目名で表記する	当該セメスターの単位まで
③	専門演習科目		授業科目名で表記する	当該セメスターの単位まで
④	専門研究科目（選択 A）		授業科目名で表記する	
⑤	第 2 外国語基礎科目		授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
⑥	第 2 外国語研究科目		授業科目名で表記する	卒業要件を限度とする
⑦	第 3 外国語科目		授業科目名で表記する	
⑧	全学共通基礎科目		海外留学認定科目で表記する	卒業要件を限度とする
⑨	全学共通研究科目		海外留学認定科目で表記する	
⑩	重点履修科目		専攻語研究科目（選択 A）または全学共通研究科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位数を算入する	

2 専攻語圏以外の大学へ留学した場合および国際教養学科の学生が留学した場合の単位認定の方法

留学先で修得した単位の認定方法は、上記の専攻語圏の大学へ留学した場合の方式を準用します。ただし、各学科の専攻語および専門科目の単位認定については、類似した科目を履修した場合に振り替えて認定する「振替認定」で行い、必修科目（基礎科目含む）の認定単位数は留学期間に応じて次のとおりとします。

(1) 留学期間が1学期間の場合

留学が終了する年次の進級基準に定める単位数（進級基準がない場合は必修科目の単位数）の半分（少数点以下は四捨五入）を上限とし、単位を認定します。認定する授業科目は留学後の履修を考慮して所属学科が決定します。なお、4年次配当の必修科目（卒業選択を除く）については、該当する学期の授業科目の単位を認定します。

(2) 留学期間が2学期間の場合

留学が終了する年次の進級基準に定める単位数（進級基準がない場合は必修科目の半分の単位数）を上限とし、単位を認定します。認定する授業科目は留学後の履修を考慮して所属学科が決定します。なお、4年次配当の必修科目（卒業選択を除く）については、該当する学期の授業科目の単位を認定します。

短期大学

留学先で修得した単位の認定方法は、原則として包括的な一括認定方式とします。ただし、外国語に関する科目は科目対科目の振替認定とし、ベーシック科目および専門コア科目（リメディアル）の認定は行いません。

なお、成績表等への表記は、一括認定の場合は海外留学認定科目、振替認定の場合は本学の授業科目名となります。

【単位認定の対象となる授業科目と優先順位】

単位認定の対象となる科目は下表のとおりで、キャリア英語科の授業科目区分に応じて単位認定を行います。

単位認定の申請は、原則として下表の優先順位に基づいて本人が行ってください。

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表（証明書）への表記方法	備考
①	専門コア科目（必修）	一括認定	授業科目名で表記する	当該セメスターの単位まで
②	専門コア科目（「課題実践」）	一括認定	課題実践（海外留学）で表記する	
③	専門展開科目	振替認定	授業科目名で表記する	
④	教養科目（教養ユニットC）	振替認定	授業科目名で表記する	
⑤	教養科目（教養ユニットA・B）	一括認定	海外留学認定科目で表記する	
⑥	重点履修科目	教養科目（教養ユニットA・B）の卒業要件単位数を超えて修得した単位数を算入する		

SAF（スタディ・アブロード・ファウンデーション）留学／休学留学（学部・短期大学生対象）

■ SAF（スタディ・アブロード・ファウンデーション）留学

本学がパートナーシップを締結している SAF をとおして、長期留学（学部留学・語学留学・インターンシップ）に参加することができます。

なお、SAF をとおして長期留学をする場合は、認定留学または休学留学のいずれかになります。認定留学として留学する場合の本学への申請条件等については本学ホームページを、また単位認定については 258～262 ページを参照してください。

< SAF 留学に関するお問い合わせ >

ウェブサイト：<http://japan.studyabroadfoundation.org/>

TEL：03-5321-6222

e-mail：safjapan@studyabroadfoundation.org

■ 休学留学

本学で「留学」としての認定を得ずに外国の教育機関等で学修する場合は、「休学」の手続きをとる必要があります。休学期間は本学の在学期間に算入しませんので、学部生は 4 年間、短期大学生は 2 年間で卒業することができません。

オフ・キャンパス・プログラム

オフ・キャンパス・プログラム

(国際教養学科生対象)

国際舞台で活躍する力を養うため、国際教養学科では教室での学びを実践するプロセスを重視し、選択必修科目として「オフ・キャンパス・プログラム」を設定しています。また、特定のプログラムに関しては、参加費用の一部を大学が補助します。プログラムの内容については、変更する場合があります。

※海外留学(短期)は次世代リーダー育成プログラム参加者も対象

■ 海外留学(短期)

オーストラリアのクィーンズランド大学(本学協定大学)が実施する5週間のGeneral English (GE) コースまたはInternational Business Communication (EIBC) コースに参加します。また、EIBC参加者が10名以上の場合には本学学生のために設けられたリーダーシップ・プログラムに参加し、国際社会で活躍するための知識やリーダーシップを身につけます。現地での滞在期間中はホームステイをします。また、参加者には本学から奨励金を支給します。

参加資格およびプログラムの詳細については、ホームページ上で確認し、説明会の日程は、「Campus Schedule」で確認してください。

※国際教養学科以外の次世代リーダー育成プログラム参加者はEIBCコースに参加可(GEコースには参加不可)

< 留学期間 >

2月中旬～3月下旬(5週間・予定)

< 単位認定 >

クィーンズランド大学からの成績に基づき、国際教養学科で2014年度以降入学者は専門特別演習科目「海外留学」(2単位)と自由選択「海外語学研修」(2単位)として、2013年度以前入学者は専門研究科目(選択B)「海外留学」(4単位)として認定します。

国際教養学科以外の学科で、次世代リーダー育成プログラム(2014年度以降入学者)に参加している学生は自由選択「海外語学研修」(2単位)として認定します。

■ 日米グローバルスタディプログラム

ニューヨーク国連本部や国連日本政府代表部などの政府機関などでレクチャーを受け、外交交渉の現場を体感します。他大学の学生と共にグローバルな諸課題を学び、国際人としての資質を養います。また、民間団体を訪問して、日米文化交流についても理解を深めます。

詳細については、説明会を開催してお知らせします。

■ グローバルビジネス・プログラム

香港やタイにおけるグローバル企業や工場を訪問します。製造、金融、流通、海運、航空業界などさまざまな分野におけるグローバルビジネスがアジアにおいてどのように展開しているのか学びます。また、タイの学生と交流しつつ、日本とタイの文化について理解を深めます。

詳細については、説明会を開催してお知らせします。

海外インターンシップ・海外フィールドワーク

海外インターンシップ

(学部・短期大学生対象)

海外インターンシップとは、海外進出している企業・団体で就業体験するプログラムです。多様な文化の中で働くために必要な意識と能力を知り、グローバルな職業観を養います。海外のビジネスの現場において求められる語学力の修得もめざします。

プログラムの詳細については募集説明会を開催します。説明会の日時は別途お知らせします。

< 対象学生 >

【学部生】2014年度以降入学者は1～4年次生、2013年度以前入学者は2～4年次生

【短期大学生】1・2年次生

< 実施時期 >

夏期・春期休暇中の1～5週間程度の実習（事前・事後学習会あり）

< 費用 >

自己負担

< 報酬 >

無報酬

< 実習先（予定） >

カナダ、スペイン、フランス、ドイツ、イギリス、中国、メキシコ、アメリカ（グアム）

POINT

カナダ研修

- ・ 英語で調査し日本語でレポートを書くという、海外で働くビジネス基礎スキルを学べる
- ・ 多文化共生の歴史や文化を肌で感じることができる
- ・ マーケティングの基礎を学ぶことができる

ヨーロッパ研修

- ・ 英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語が生かせる
- ・ 世界有数の観光都市のツーリズム文化に触れることができる
- ・ ヨーロッパ特有の洗練さと伝統の異文化体験ができる

中国研修

- ・ 徹底したビジネス文書の作成が学べる
- ・ 実用的な中国語の運用方法が学べる
- ・ 出張同行などとおして日中経済に関わる多くのビジネスパーソンと出会える

メキシコ研修

- ・ ラテンアメリカの企業風土を肌で体感できる
- ・ アットホームな受入先企業
- ・ 日系企業の進出が目覚ましいメキシコの産業界を間近で学習できる

アメリカ（グアム）研修

- ・ ホテル業と旅行業の両方を一度に学べる
- ・ 英語を使った実践的な接客スキルが身に付く
- ・ 実務研修だけでなく、“学生オリジナル旅行の企画”もできる

< 単位認定 >

学部4年次生および短期大学2年次生は、卒業する年度の春期休暇中に実習した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。また、学部1～3年次生（2014年度以降入学者）は研修を行った年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」に含めないようにしてください。

単位認定	【学部生】 8単位を上限に本人の申請に基づき、審議のうえ、2014年度以降入学者は自由選択の「海外インターンシップ」として、また、国際教養学科の学生は、2単位を満たす場合は専門特別演習科目（必修）として認定します。2013年度以前入学者は全学共通研究科目の「海外インターンシップ」として、また、国際教養学科の学生は、4単位を満たす場合は専門研究科目（選択B）として認定します。 認定単位数は就業期間や時間によって異なります。	
	【短期大学生】 8単位を上限に本人の申請に基づき、審議のうえ、オフ・キャンパス科目のインターンシップユニットの単位として（4～8単位）を認定します。 認定単位数は就業期間や時間によって異なります。 ※インターンシップで単位認定を行う場合、受け入れ機関と本学の協定が必要となりますので、事前にキャリアセンターへ相談してください。 ※単位認定全体の上限等については、「本学以外での学修成果に対する単位認定」（学部52ページ、短期大学222・223ページ）を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、実習日誌、事後学習レポート
	提出時期	10月上旬または3月下旬
	提出場所	キャリアセンター

海外フィールドワーク

(学部生対象)

< 単位認定 >

海外での実習・研修・研究等のフィールドワークは、本学が教育上有益と認めた場合、活動時間や内容に応じて本学の卒業要件として単位の認定を行います。認定をうけるには、機関元の発行する証明書と活動時間・内容が分かる証明書等が必要です。また、単位認定の申請できる期間が、活動を行った時期によって異なりますので注意してください。

4年次生は卒業する年度の2月・3月に活動を行った場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。また、1～3年次生(2014年度以降入学者)が2月・3月に活動を行った場合の単位認定は翌年度になりますので、活動を行った年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」には含めないようにしてください。

なお、研修等は授業に支障をきたさないように、授業期間外に行うようにしてください。また、休学期間中の活動については、単位の認定を受けることができません。

※国際教養学科の学生は、事前に学科へ申し出て活動を行うようにしてください。

対象学生	2014年度以降入学者は1～4年次生、2013年度以前入学者は2～4年次生	
単位認定	4単位を上限に本人の申請に基づき、審議のうえ、2014年度以降入学者は自由選択の「海外フィールドワーク」として、2013年度以前入学者は全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として認定します。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外での学修成果に対する単位認定」(52ページ)を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	①単位認定願 ②機関元が発行した証明書 ③活動時間が明記されている書類(証明書に記載のない場合) ④活動内容がわかる書類
	申請時期	2月～6月の活動：7月9日～7月15日(日祝の場合はその翌日) 7月～1月の活動：1月9日～1月15日(日祝の場合はその翌日) ※活動した年度(2月・3月は翌年度)に申請してください。
	提出場所	教務部

■ 海外フィールドワーク(ベトナム)

異文化においてゼロからチームで課題に挑戦するバイタリティ溢れる人材育成を目指します。ベトナムという英語が公用語でないアウェイな環境で与えられた課題(仕事)に対し、限られた時間内にチームで取り組み最善の結果を導き出す課題解決型プログラムです。

このプログラムの詳細については募集説明会を開催します。説明会の日時は別途お知らせします。

< 対象学生 >

2014年度以降入学者は1～4年次生、2013年度以前入学者は2～4年次生

< 実施時期 >

夏期休暇中の1週間程度の実習(事前・事後学習会あり)

< 費用 >

自己負担(26万～30万円程度)

< 報酬 >

無報酬

※単位認定申請時の提出書類、提出場所等は募集説明会で配布する資料で確認してください。

POINT

こんな人にオススメ

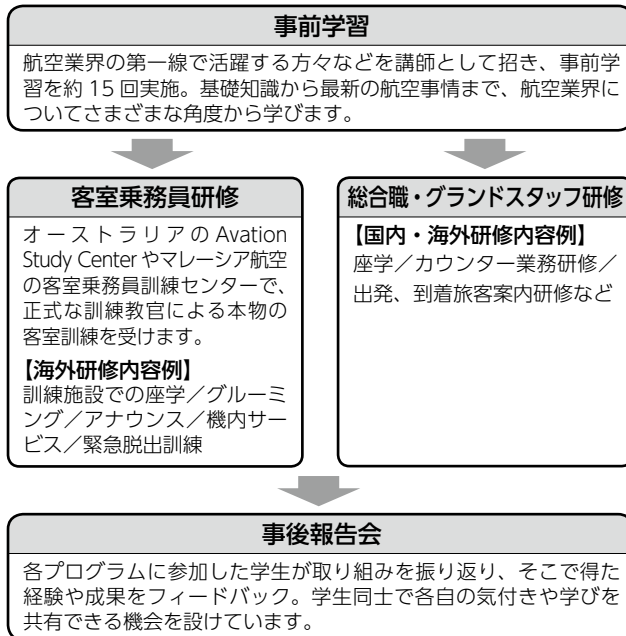
- 1 マーケティングやビジネス企画に興味のある人
- 2 アウェイの環境で自分が何ができるのか挑戦してみたい人
- 3 これまでの自分の殻を破ってみたい人

エアライン・スタディ・プログラム (学部・短期大学生対象)

航空会社等との連携により、実際に訓練を行う空港・研修施設で、本格的な講習や訓練が受けられます。また、キャリア・スタディ科目群には「航空ビジネス概論」や「航空ビジネス演習」など、サービス・ホスピタリティ産業への就職をめざす学生に向けた授業科目を数多く開講しています。

このプログラムの詳細については募集説明会を開催します。説明会の日時は別途お知らせします。

< プログラムの流れ >



過去の実績

客室乗務員研修 研修先

- ・オーストラリア・ブリスベン Aviation Study Centre
- ・マレーシア航空 (マレーシア航空客室乗務員訓練センター)
- ・アジアナ航空 (アジアナ航空トレーニングセンター)

総合職・グランドスタッフ研修 研修先

- ・JAL 香港 (香港国際空港)
- ・JAL 大連 (大連国際空港)
- ・JAL 台北 (台湾桃園国際空港・台北松山国際空港)
- ・JAL パリ (シャルル・ド・ゴール国際空港)
- ・JAL フランクフルト (フランクフルト国際空港)
- ・JAL ヘルシンキ (ヘルシンキ国際空港)
- ・JAL シドニー (シドニー国際空港) など

< 単位認定 >

エアライン・スタディ・プログラムとして研修を行った場合、本学の卒業要件として単位の認定を行います。

※国際教養学科の学生は、事前に学科に申し出て研修を行うようにしてください。

学部 4 年次生および短期大学 2 年次生は、卒業する年度の春期休暇中のプログラムに参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。また、学部 1～3 年次生 (2014 年度以降入学者) は研修を行った年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」に含めないようにしてください。

対象学生	学部 1～4 年次生、短期大学 1・2 年次生
単位認定	<p>客室乗務員研修：ブリスベン研修のみ 4 単位を上限に、審議のうえ、以下のとおり認定します。 (ほかの客室乗務員研修の単位認定は行いません)</p> <p>【学部生】 2014 年度以降入学の国際教養学科以外の学科の学生は自由選択の「海外フィールドワーク」として、国際教養学科の学生は専門特別演習科目 (必修) の「フィールドワーク」として優先的に 2 単位を認定し、余剰単位を自由選択の「海外フィールドワーク」として認定します。 2013 年度以前入学の国際教養学科以外の学科の学生は全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として、国際教養学科の学生は専門研究科目 (選択 B) の「フィールドワーク」として優先的に 4 単位を認定 (すでに 4 単位を修得している学生は全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として認定) します。</p> <p>【短期大学生】 オフ・キャンパス科目の海外研修ユニット「海外での客室乗務員の研修」として認定します。</p> <p>総合職・グランドスタッフ研修：8 単位を上限に、審議のうえ、以下のとおり認定します。</p> <p>【学部生】 2014 年度以降入学の国際教養学科以外の学科の学生は自由選択の「海外インターンシップ」として、国際教養学科の学生は専門特別演習科目 (必修) の「海外インターンシップ」として優先的に 2 単位を認定し、余剰単位を自由選択の「海外インターンシップ」として認定します。 2013 年度以前入学の国際教養学科以外の学科の学生は全学共通研究科目の「海外インターンシップ」として、国際教養学科の学生は専門研究科目 (選択 B) の「海外インターンシップ」として優先的に 4 単位を認定 (すでに 4 単位を修得している学生は全学共通研究科目の「海外インターンシップ」として認定) します。</p> <p>【短期大学生】 オフ・キャンパス科目のインターンシップユニット「海外インターンシップ」として認定します。</p> <p>※単位認定全体の上限等については、「本学以外での学修成果に対する単位認定」(学部 52 ページ、短期大学 222・223 ページ) を参照してください。</p>

TECSOL&J-SHINE認定取得プログラム (学部・短期大学生対象)

オーストラリアのブリスベンで、夏期・春期休暇に4週間または6週間の短期集中研修と、現地の学校等でボランティアを行い、英語を母国語としない子どもたちに英語を教えることを目的とした「TECSOL」と小学校英語指導者資格「J-SHINE」の2つの資格取得を目指します。**4年次生は卒業する年度の卒業要件単位に含めないようにしてください。また、1～3年次生(2014年度以降入学者)が2月の研修に参加した場合の単位認定は翌年度になりますので、研修に参加した年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」には含めないようにしてください。**

TECSOL、J-SHINE について							
<p>TECSOL … TECSOL(Teaching English to Child Speaking of Other Language) は、英語を母国語としない子どもたちに英語を教えることを目的とし、いわゆる児童英語講師として、民間の英語教室や独立開業などで教える際に必要とされる世界に共通する資格です。</p> <p>J-SHINE … 『小学校英語指導者資格』(J-SHINE 資格) は、小学校での英語活動・英語教育を行う上で、必要な知識と技能を有し、児童英語教育指導者として十分な能力を有していることを証明する資格です。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)が資格を認定します。</p> <p>説明会は決定次第、京都外大 Web Campus にてお知らせします。</p>							
対象学生	学部の2014年度以降入学者は1～4年次生、2013年度以前入学者は2～4年次生、短期大学は1・2年次生						
単位認定	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 5px; vertical-align: top;">6週間参加した場合</td> <td style="padding: 5px;"> <p>【学部生】 2014年度以降入学の国際教養学科の学生は専門特別演習科目(必修)の「フィールドワーク」または自由選択の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は、自由選択の「海外フィールドワーク」として4単位を認定します。 2013年度以前入学の国際教養学科2年次以上の学生は、専門研究科目(選択B)の「フィールドワーク」または全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として4単位を認定します。</p> <p>【短期大学生】 オフ・キャンパス科目「海外研修ユニット」として単位認定します。</p> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;">4週間参加した場合</td> <td style="padding: 5px;"> <p>【学部生】 2014年度以降入学の国際教養学科の学生は専門特別演習科目(必修)の「フィールドワーク」または自由選択の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は自由選択の「海外フィールドワーク」として3単位を認定します。 2013年度以前入学の学生は、全学共通科目の「海外フィールドワーク」として3単位を認定します。</p> <p>【短期大学生】 オフ・キャンパス科目「海外研修ユニット」として単位認定します。</p> </td> </tr> </table> <p>※単位認定全体の上限等については、「本学以外での学修成果に対する単位認定」(学部52ページ、短期大学222・223ページ)を参照してください。</p>	6週間参加した場合	<p>【学部生】 2014年度以降入学の国際教養学科の学生は専門特別演習科目(必修)の「フィールドワーク」または自由選択の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は、自由選択の「海外フィールドワーク」として4単位を認定します。 2013年度以前入学の国際教養学科2年次以上の学生は、専門研究科目(選択B)の「フィールドワーク」または全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として4単位を認定します。</p> <p>【短期大学生】 オフ・キャンパス科目「海外研修ユニット」として単位認定します。</p>	4週間参加した場合	<p>【学部生】 2014年度以降入学の国際教養学科の学生は専門特別演習科目(必修)の「フィールドワーク」または自由選択の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は自由選択の「海外フィールドワーク」として3単位を認定します。 2013年度以前入学の学生は、全学共通科目の「海外フィールドワーク」として3単位を認定します。</p> <p>【短期大学生】 オフ・キャンパス科目「海外研修ユニット」として単位認定します。</p>		
6週間参加した場合	<p>【学部生】 2014年度以降入学の国際教養学科の学生は専門特別演習科目(必修)の「フィールドワーク」または自由選択の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は、自由選択の「海外フィールドワーク」として4単位を認定します。 2013年度以前入学の国際教養学科2年次以上の学生は、専門研究科目(選択B)の「フィールドワーク」または全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は全学共通研究科目の「海外フィールドワーク」として4単位を認定します。</p> <p>【短期大学生】 オフ・キャンパス科目「海外研修ユニット」として単位認定します。</p>						
4週間参加した場合	<p>【学部生】 2014年度以降入学の国際教養学科の学生は専門特別演習科目(必修)の「フィールドワーク」または自由選択の「海外フィールドワーク」として、それ以外の学科の学生は自由選択の「海外フィールドワーク」として3単位を認定します。 2013年度以前入学の学生は、全学共通科目の「海外フィールドワーク」として3単位を認定します。</p> <p>【短期大学生】 オフ・キャンパス科目「海外研修ユニット」として単位認定します。</p>						
単位認定の申請	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 5px;">提出書類</td> <td style="padding: 5px;">J-SHINE 実習日誌・TECSOL 修了証のコピー・ボランティア先の資料のコピー</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">提出時期</td> <td style="padding: 5px;">8月の研修に参加をした場合は、11月の指定された日 2月の研修に参加をした場合は、翌年度の6月の指定された日</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">提出場所</td> <td style="padding: 5px;">教務部分室</td> </tr> </table>	提出書類	J-SHINE 実習日誌・TECSOL 修了証のコピー・ボランティア先の資料のコピー	提出時期	8月の研修に参加をした場合は、11月の指定された日 2月の研修に参加をした場合は、翌年度の6月の指定された日	提出場所	教務部分室
提出書類	J-SHINE 実習日誌・TECSOL 修了証のコピー・ボランティア先の資料のコピー						
提出時期	8月の研修に参加をした場合は、11月の指定された日 2月の研修に参加をした場合は、翌年度の6月の指定された日						
提出場所	教務部分室						

海外語学研修の単位認定

(学部生対象)

海外の語学教育施設で語学研修を行い、一定の成果をあげ、本学が教育上有益と認めた場合、活動時間や内容に応じて本学の卒業要件として単位の認定を行います。認定を受けるには、教育施設の発行する証明書と研修期間・総学習時間数・内容が分かる証明書等が必要です。また、単位認定の申請できる期間が、活動を行った時期によって異なりますので注意してください。**4年次生は卒業する年度の2月・3月に活動を行った場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。また、1～3年次生(2014年度以降入学者)が2月・3月に活動を行った場合の単位認定は翌年度になりますので、活動を行った年度の進級基準における「卒業要件の合計単位数」には含めないようにしてください。**

なお、研修は授業に支障をきたさないように、授業期間外に行うようにしてください。また、休学期間中の活動については、単位の認定を受けることができません。

※国際教養学科の学生は、事前に学科へ申し出て活動を行うようにしてください。

対象学生	1～4年次生	
単位認定	2単位を上限に本人の申請に基づき、審議のうえ、2014年度以降入学者は自由選択の「海外語学研修」として、2013年度以前入学者は全学共通基礎科目の「海外語学研修科目」として認定します。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外での学修成果に対する単位認定」(52ページ)を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	①単位認定願 ②教育施設が発行した証明書 ③研修時間が明記されている書類(証明書に記載のない場合) ④研修(学習)内容がわかる書類
	申請時期	2月～6月の研修：7月9日～7月15日(日祝の場合はその翌日) 7月～1月の研修：1月9日～1月15日(日祝の場合はその翌日) ※研修した年度(2月・3月は翌年度)に申請してください。
	提出場所	教務部

リーダーシップ・チャレンジ

リーダーシップ・チャレンジ

(学部・短期大学生対象)

京都外大リーダーズ・スクール (GLS) が、西日本学生リーダーズ・スクール (UNGL) と連携して実施する研修で、夏期休暇と春期休暇を利用しサイパンや韓国で約 1 週間の研修を行います。価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動をとおして実践的なリーダーシップ (スキル・知識・態度) を身に付けます。

なお、このプログラムは単位認定を行いません。

■ APSSA 学生カンファレンス (Advance Programs)

< 概要 >

アジア太平洋地区の学生支援に携わる大学教職員のための国際学会で同時開催される「学生カンファレンス」への参加を通じて、実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。本カンファレンスは、2年に1度開催され、アジア各国で開催されます。具体的な内容として、アジア太平洋地区各国の大学生が集まり、国際的な課題を解決するために、“大学時代に何を学ばよいか、何をすればよいか”などの様々なテーマに討論します。各国の大学生がチームを作り、それぞれの国の現状や課題、未来への展望を議論する中で、自分自身のリーダーシップが試される非常にチャレンジングな体験になることは間違いありません。

■ リーダーシップ・チャレンジ in 台湾 (Advance Programs)

< 概要 >

高雄第一科技大学において、台湾やタイからの複数の大学からくる大学生や留学生とともに、リーダーシップ・トレーニングを行います。多様な価値観を持つ他国の学生とのグループワークやディスカッション、学外でのフィールドワークを通じて、実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。他者との協力場面における自らの振る舞いや言動を、自分自身、共に学ぶ仲間、そして教職員とともに深く振り返ることによって、自分自身の強みや課題を強く認識し、次のステップにつなげることができます。

■ リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (Intermediate Programs)

< 概要 >

北マリアナ諸島の中心的な島であるサイパン島内の12の小中学校において、1週間先生の体験をします。自らが積極的にコミュニケーションを取ることで、担任の先生との協力体制を築き、自分が受け持つ小中学生に対して日本文化や道徳にまつわる授業を行います。また、自分の得意分野 (スポーツ、音楽等々) を活かした異文化交流、社会貢献活動などを行います。その中で自らの振る舞いや言動を、自分自身、共に学ぶ仲間、そして教職員とともに深く振り返ることによって、自分自身の強みや課題を強く認識し、次のステップにつなげることができます。

■ リーダーシップ・チャレンジ in 韓国 (Intermediate Programs)

< 概要 >

南ソウル大学において、日本語を学ぶ韓国人大学生に対して日本文化や道徳にまつわるセミナーを行います。また、韓国人学生とのさまざまな異文化交流やディスカッション、さらにフィールドワークをとおして、実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。さまざまな価値観や文化の違いを実感することによって、改めて自らの国の文化や歴史にも気づきを得ることができるでしょう。

留学サポート

■ 国際部 (9号館5階)

はじめての留学でも疑問や不安を解消でき、安心して留学生活をスタートできるよう、きめ細やかなサポート体制を整えています。是非、活用してください。

- 留学相談
- 派遣留学手続きのサポート
- 留学説明会・オリエンテーション実施
- 留学フェアの実施

■ 留学情報室 (9号館5階)

留学に関する雑誌や、海外の協定大学の資料、過去に実施した交換留学プログラム [派遣留学 A] 選考試験の問題などを自由に閲覧できます。

なお、留学情報室の利用については、以下の点に留意してください。

- パソコン (5 台) ・プリンターは留学に関する利用に限定します。
- 喫煙および飲食物の持ち込み、携帯電話の使用を禁止しています。

国際部・留学情報室 開室時間

月～金曜日：9:00～21:30 (祝日を除く)
土曜日：9:00～17:00 (祝日を除く)

※ 休暇期間中の開室時間は上記と異なりますので、
掲示で確認してください。



■ 国際部 Student Staff (s.s.)

国際部隣の留学情報室に“国際部 Student Staff (S.S.)” が在室しています！

S.S. とは国際部付の派遣留学経験者を中心とした学生スタッフです。留学を希望している人は、勉強方法や留学先での生活の様子など、聞きたいことがあれば気軽に相談に来てください。S.S. は「TOEFL iBT テスト / IELTS などの勉強会」、「留学体験の発表会」、「交換留学生と外大生との交流イベント」などを実施しています。

※ 各イベントの詳細については決まり次第、掲示、京都外大 Web Campus、京都外国語大学 国際部 Facebook でお知らせします。



■ 留学月間報告書閲覧システム

京都外大 Web Campus では、留学経験者や現在留学中の学生の様子が見える「月間報告書」を閲覧することができます。最新の留学情報の収集に大いに役立ててください。

< 留学情報室 Student Staff (S.S.)在室時間一覧表 >

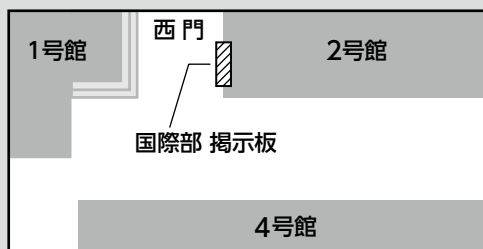


< 国際部 Facebook >



QRコードを読み取り、
詳細を確認してください。

国際部掲示板 2017年4月1日現在



< 掲示内容 >

- 国際部からのお知らせ
- 留学説明会・イベント案内
- 選考試験結果発表
- S.S. 在室時間およびイベント案内

■ 留学フェア

本学では、「異文化を体験したい」「実践的に外国語を学びたい」など、海外へ夢を抱く学生のために留学フェアを春(4月)と秋(10月~11月)に開催しています。留学制度や留学までの流れ、費用、受け入れ先の特徴など、留学の基礎知識を丁寧に説明し、目的や予算にフィットした留学先選びをサポートしています。また、派遣留学経験者の国際部 Student Staff が、現地での具体的な学び方や生活スタイル、履修・単位認定について詳しくアドバイスをします。在日外国公館や海外留学を支援する機関・団体も数多く参加し、留学の専門スタッフが詳しくアドバイスをします。



■ 留学制度の担当部署

国際部

留学制度全般(国内留学を除く)、海外セミナー、オフ・キャンパス・プログラム(短期留学)、ケンブリッジ大学英語研修(短期留学)、国立マレーシア科学大学英語研修(短期留学)、夏期英語研修、海外日本語教壇実習プログラム、アシスタント・ホストファミリーについて

キャリアセンター

海外インターンシップ・海外フィールドワークについて

教務部

エアラインスタディプログラム、オフ・キャンパス・プログラム(短期留学を除く)、プロジェクト科目、京都文化体験、TECSOL&J-SHINE 認定プログラム、国内留学について

京都外大リーダーズスクール

リーダーシップ・チャレンジについて

海外渡航をする場合の留意事項

海外では皆さんの想像以上に、治安の状況や流行している病気など、日本とは大きく異なり、出発前の準備から無事に日本に帰国するまで心のギアチェンジが必要です。ここでは、海外渡航をする場合の大事な情報を記載していますので、内容をしっかりと確認し、必要な手続きを確実に取ってください。

1. 渡航前

(1) 渡航先周辺の情報収集

渡航先周辺の社会・治安情勢、衛生状況や病気に関する情報、生活習慣・風俗、犯罪傾向・手口など、最新の情報を以下のホームページ等で確認しておきましょう。

< 外務省 >

- 海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>
- 世界の医療事情 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/>
- 領事サービスセンター（海外安全相談班） http://www.anzen.mofa.go.jp/about_center/

< 厚生労働省 >

- 感染症・予防接種情報
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/

< (独立行政法人) 国際協力機構 >

- 世界の様子（国別生活情報） <https://www.jica.go.jp/regions/seikatsu/>

(2) パスポートとビザ

渡航先が決まったら、渡航手続きを開始してください。旅券（パスポート）は原則として、住民票のある都道府県の旅券事務所で申請します。ただし、京都府以外に住民登録をしていますが、通学のために京都府内に住んでいる人は、京都府でパスポートを申請することができます。詳しくは、京都府旅券事務所のホームページ等で確認してください。

同時に、渡航先の国で査証（ビザ）が必要かどうかを各国の大使館や領事館のホームページで確認し、必要な場合は速やかに査証申請手続きを始めてください。手続方法、必要書類、取得までにかかる日数、手数料等の最新情報もホームページで早めに確認しましょう。

< 外務省 >

- 各都道府県旅券事務所 http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/pass_6.html
- 駐日外国公館 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/link/emblast/>

(3) 航空券

出発日が決まったら、航空券を予約してください。航空券の種類によっては格安なものもありますが、「払い戻しができない」、「期日の変更ができない」、「途中で降機できない」等いくつか制限があるので、購入の際は十分注意してください。値段の安さだけにとらわれず、信用のおける航空会社を選ぶよう情報収集をおこなってください。

(4) 海外旅行傷害保険

外国では日本で加入している健康保険等は使用できません。怪我や病気で病院にかかった際の治療費は、日本では想像もつかないくらいの高額になることがあるため、出国から帰国までをカバーする保険が必要です。保障内容をしっかりと確認の上、出発までに加入しておいてください。

(5) 健康状態の確認

渡航前に健康診断や予防接種を受ける等、自分の健康状態や免疫抗体を把握しておいてください。麻疹の予防接種に関しては、母子手帳を確認のうえ、医療機関で相談することを強くお勧めします。その他病気予防や感染症の情報に関しては以下のホームページ等で確認してください。

< 厚生労働省検疫所 >

- FORTH (For Travelers' Health) <http://www.forth.go.jp/>

また、持病のある人は、かかりつけの医療機関で、英語等での診断書や処方箋を作成してもらい、現地に持参してください。万一の場合に備え、持病について英語等で説明ができるよう準備しておきましょう。

(6) パスポートやクレジットカード等のコピー

万一、外国でパスポートやクレジットカード等を紛失した場合でも、あらかじめコピーを取っておくと届け出る時に便利です。また、パスポート等を紛失した場合の届出先の一覧を作成しておく、緊急の際に迅速に対処できます。(例：大使館、領事館、現地警察、クレジットカード会社、航空会社、保険会社等)

(7) 渡航前の学内手続

本学の留学制度以外で、休暇中や休学中に海外渡航する人は、「海外渡航届」を学生部へ提出してください。

2. 渡航期間中

(1) 安着連絡

家族に無事現地に到着したことを知らせましょう。また、万一の場合に備え、日本のご家族とは定期的に連絡を取り合うようにしましょう。

(2) 「在留届」の提出および「たびレジ」への登録

外国に住所または居所を定めて3ヵ月以上滞在する人は、その地域を管轄する日本大使館または総領事館に「在留届」を提出することが義務付けられています。また3ヵ月未満の人は、外務省海外旅行登録「たびレジ」へ登録してください。渡航先で事件・事故など思わぬ災害に巻き込まれる事態に遭った場合、日本大使館や総領事館は「在留届」や「たびレジ」の登録をもとに援護活動を行います。

< 外務省 >

●海外へ渡航される皆様へ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

(3) 安全情報の確認

現地での治安情勢や感染症などについては、必ず以下のホームページで最新の情報を入手してください。また、日ごろから緊急連絡先(保険会社サポートデスク等)は身につけておくようにしましょう。

< 外務省 >

●海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

●現地の日本大使館または総領事館等のホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/link/zaigai/>

(4) 現地での行動

日本とは常識が異なるということをよく理解しておきましょう。周辺的环境や治安情報に気を配り、危険はできる限り避け、あらゆる場面において安全第一を心がけましょう。

- 危険地域に立ち入らない
- 薬物使用に巻き込まれない
- 夜は決して1人で出歩かない
- 交通ルールを理解する
- 大金を持ち歩かない
- 車やバイクの運転はしない
- 安易に見知らぬ人を信用しない